

山五小

おひさま通信

ホームページ「山形市立第五小学校」で検索

平成29年度
2月号

山形市立第五小学校
平成30年2月23日
校長 三森 聡

◇◇学校評価についてお知らせします◇◇

< 回答率 児童 99.2% ・ 保護者 94.4% >

I 学校経営目標と重点



自分を発揮できる居心地のいいあたたか学校

子ども達につけたい力

- ◆ **自分の思い**を持つとともに、**相手の行動を受け止めて行動**できる子ども
- ◆ じっくりと構え、**失敗を恐れずに挑戦**できる子ども
- ◆ 自分達で創り上げようとする **自立心と達成感**を持つ子ども

授業づくり「質の高い学び合い」

- 基礎・基本の確実な習得
- 探究的な学び・活用力の育成
- 学び方（できる方法・道筋）の育成

自分づくり「自己有用感を高める」

- 個々が活躍する場の設定
- 自他の成長の振り返り
- 自己表現できるスキルの獲得

仲間づくり「あたたかい関わり」

- あこがれや支え合いのある異学年交流
- 絆を生む「あたたかな関わり合い」
- 地域のよさを共有したつながり合い

II 児童のアンケートから

(1)「自尊感情・自己有用感の醸成」

自尊感情の面として、「自分にはよいところがある」と回答した児童は、「全くそう思う」と「概ねそう思う」を合わせて89.5%となり、前年度の83.9%より伸びが見られた。また、自己有用感の醸成として「自分の力を発揮しているか」については、87.1%となり、前年度の72.2%を著しく上回る結果となった。特に、「全くそう思う」が、前年度の26.6%から54.0%と倍になった。



友達のつくった物語を褒めたたえあう子ども達

⇒ 学校教育目標を16年ぶりに見直しを図り、「自分・友だち大好き」として、「自分を発揮できること」を学校経営のキーワードとしてきた。児童には、「これだったら自分もよさを発揮できるぞ。」というような自己有用感につながるエピソードを機

会がある度に紹介しイメージを持たせてきた。併せて教職員をはじめ周りの児童らが友だちの価値ある振る舞いを賞賛するなど、認め合いの場を設けたことで自分のよさや力を再認識するようになった。

今後、更なる発展を考え、**自己有用感につながる家庭での取り組みなど、保護者会などでも話し合いを持ち、学校と家庭とで共有化を図っていききたい**と考えている。



友達の練習した成果を認め合う子ども達

(2)「体づくり」

めあてや目標をもって運動しているという意識については、87.2%から92%と数値が上がってきており、児童の意識は高いといえる。日頃の体育の授業の他、マラソンカードや水泳カードなどの取り組みを通して児童に**具体的なめあて・目標を持たせながら取り組んできた結果**であると思われる。今後も、児童の体力の向上を図ると共に、学校教育目標の筆頭に掲げている「運動大好き」を柱にして取り組んでいきたい。



チャレンジタイムで走り方の練習をし合う、縦割りなかよし班の子ども達

(3)「心づくり」

「思いやり・励まし・支え合い」についてはできたと感じている児童の割合が、87.2%が89.1%と、前年度より高くなった。また、「友だちとのあたたかいかわり」は、一昨年新しく加えた項目であるが、88.1%（H27）→92.4%（H28）→93.1%（H29）と着実に数値が上がってきている。

児童会において、あいさつ運動など、思いやりの行動である「五小思草（しぐさ）」とはどういうことなのかを児童自ら考えさせ、具体的な目標・活動をもちながら取り組むことができるようにしてきた。各学級でも、「スマイル言葉の木」などの取り組みが実を結んできている。授業においては、児童相互のより良い関係性の中で学習できるように、「学び合い」を切り口に授業改善に取り組んできた。



自然と笑顔になる縦割りなかよし班の交流会

「挑戦する心」においては、87.5%が88.7%と上昇し、多くの児童が、失敗を恐れずに何事にも挑戦していると感じているようだが、その中で「全くそう思う」が51.6%と決して高いとは言えない数値である。また、学年によってバラツキがあり、高学年になると低くなる傾向が強い。

「異学年との関わり（なかよしタイムなど）」も楽

しいと感じている児童の割合が94.2%→93.1%へと少し低くなった。しかし、「全くそう思う」と答えている子が76.6%と非常に高い。なかよしタイムでの縦割り清掃を始め、合唱やスポーツなどの縦割り班活動において、そのねらいを高学年の児童自身によく認識させながら取り組ませたことや、市民合同音楽祭の3・4年合同での参加、運動会・おひさまフェスタなど、**年間を通して、さまざまな行事や活動において異学年との豊かな交流を行ってきたこと**などが、このようなよい結果に結びついたのでないかと考えられる。

(4)「携帯・スマホ・インターネットの使用実態」

ネットモラルに関わるメディア機器の使用状況を把握するため一昨年度より追加した項目で、「やっていない→30分以内→1時間以内→1時間以上」となるに従って、その割合は減っていくものの、24.4%の児童が1時間以上使用していることがわかった。また1・2年生はやっていない児童が半数以上であるのに対し、3年生からの使用頻度が増える傾向にあるため、児童会で考案した**本校のメディアルールを意識させると共に、下学年のうちに、正しい使い方やその危険性を教えていく必要がある**と思われる。



インターネットを使うときのモラルを学ぶ子ども達

(5)「学びづくり」

「主体的な学習」の項目では、できたと感じている児童は90.3%であった。この結果は、概ね意欲的に参加できていると考える。

「話し合いや学び合いなど、他と関わりながらの学習」は、前年度93.3%が92.7%と数値が若干下がったものの

90%以上の非常に高い値を示し、「非常に良好な評価」が得られた。これは、**児童相互のより良い関係性の中で学習できるよう「学び合い」を切り口に授業改善を試みてきた**。とくに、児童一人一人が課題を追究して学び合うことが児童の主体性や学力向上につながってきている。これは、**本校独自の研究として確立してきた「学びのサイクル」**の効果が表れていると考えている。



調べてきたことをもとに学び合う子ども達



疑問をもったら自分達で調べるなど
探究し合う子ども達

※五小の学びのサイクル

- ①課題をもつ ②自力解決を図る ③考えの交流 ④学び合い
- ⑤振り返りによる自分の良さの気づきや新たな課題設定

(6)学校生活全般

五小が楽しく元気に登校できる学校であるという評価をした児童は前年度94.6%が

95.9%と数値が上がり、依然として高い数字であるが、微数とはいえ、3.2%の児童が「そう思わない」と答えていることから、「今日、学校に来てよかった。明日も学校に来たい。」と誰もが思えるような楽しい学校づくりをなお一層目指していきたい。

Ⅲ 保護者のアンケートから

(1) 全般的な傾向から

詳しく見ると、昨年度に比べ若干数値が下がったり、変化がなかったりするものはあるものの、全ての項目において保護者の皆さまから「非常に良好な評価（「全くそう思う」が40%以上で、かつ「概ねそう思う」と合わせて90%以上）」をいただくことができた。特に、数年前に比べ、どの項目も良い評価の割合を大きく伸ばしている。昨年度との比較は、次のとおりである。

◆全くそう思う+概ねそう思う総数	()は前年度
「生活態度の向上」	99.5% (99.0%)
「生活習慣の確立」	98.4% (97.4%)
「あたたかい人間関係づくり」	97.3% (98.0%)
「わかる・できる授業づくり」	98.4% (97.4%)
「スポーツ・文化活動による活力ある学校づくり」	98.9% (99.4%)
「開かれた学校づくり」	96.8% (98.4%)
「情報のわかりやすい伝達」	98.4% (98.4%)
「がんばりを認め、伸ばそうと努力」	98.9% (95.3%)
「保護者のみなさんの相談への迅速・的確な対応」	98.4% (98.9%)
「PTAと協力したよりよい教育環境づくり」	98.4% (98.4%)

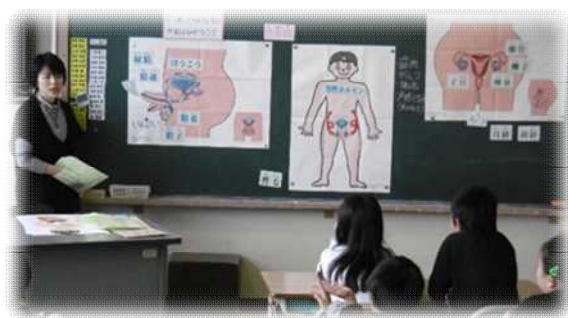
(2) 五小にもっとも期待したいこと

- ①「心の教育」 ②「いのちの教育」 ③「基礎基本と応用的な学力の充実」

(3) 自由記述から

職員のがんばりに対し、多くの励ましの言葉をいただいた。大変励みになると同時に、その期待に応えられるよう、一層努力していかなければならないと心を新たにしました。

さらに良くなるアイデアとして右枠の意見をいただいた。次年度の教育課程編成の際に参考にしたいと考えている。



「いのち」を考える学習より



児童会で率先して行う五小思草「あいさつ運動」

保護者が学校に求めている主な事柄

- ①安全・安心で明るい学校環境づくり
- ②児童のあいさつや言葉遣い
- ③学習の基礎基本の定着
- ④さまざまな「交流」の機会設定
- ⑤応用的な学力の充実
- ⑥図書に親しめる環境づくり
- ⑦施設設備面での改善
- ⑧PTAの協力体制や組織面での改善
- ⑨情報の伝達の工夫 等

IV 学校評議員からの助言

◆小野寺委員より

1. アンケートには、学校が更によくなるためにと保護者からのアイディアも出されており、学校として参考にできるものもあるだろう。ただ、中には家庭教育で担った方がいいものもあり、学校が全てを受け入れるには難しいだろう。本アンケートをふまえ、次年度の方向性について保護者や地区にも示して共有化していくことが大事である。
2. 自学のあり方について、ややもすると教師によって違うことがある。学校としての自学における共通の方針があればよい。
3. 自転車乗りの練習をさせるにしても、学校のグラウンドは交通安全の教室以外は、原則自転車の乗り入れを禁止にしている。町内会や子ども育成会などと連携して、近所の公園で自転車の乗り方の指導ができるような機会をつくれないうだろうか？
4. 隣県東松島の教育委員会の方針では、次年度の夏休みを減らすということがニュースになっていた。五小の夏休みも含め、次年度の計画をどのように考えていくのか？
 - ➡ 夏季休業日は、今年度と同日数で対応する予定。
次年度は、新学習指導要領の外国語活動（3・4学年）及び外国語（5・6学年）の移行措置により15時間の確保が必要となるが、これまでの余剰時数で対応するように考えている。ただし、平成32年度には、更に20時間の増になることから、そのための準備はしていく。（学校）
5. 地域活動は、丸ごと自分に降りかかってくるものと考えて行動していく姿勢が大事である。学校が地域にお願いしたいことがあれば何でも言って欲しい。

◆無着委員より

1. 「おひさまフェスタの子ども達の声が聞こえなかった。」という保護者アンケート（3件）に対して、どのように改善を図っていったらよいのか？
 - ➡ 集音マイクの学年ごとの位置の確認が不徹底であったので、次年度は、学年間で連携を図り、集音マイクの事前準備と感度調整を万全にして臨みたいと考えている。また、更なる子ども達の表現力の向上を図っていきたい。
2. おひさまフェスタでは残念ながら保護者の私語もあったので、PTAとして静かにしてもらおう何らかの工夫を考えていきたい。

◆佐藤委員より

1. 何よりも「子ども達が楽しく学校に来ている」ということは素晴らしいこと。
2. 評価は全体的に良好である。ただし、プラスの要因が文章だけでは見えないところがあるので、全体だけでなく、個別のケアも大切にしてほしい。



評価分析をもとに協議し合う学校評議員

4. 子ども達同士の温かい関わり合いが広がっているようだ。社会の中においても、多様なかわりをつくれることが大事である。そして関係性が人を育てる。

◆平尾委員より

1. おひさまフェスタについて、保護者の鑑賞マナーは問題ではないか。話し声があつて気になった。「発表のときは静かに！」などの標示が必要ではないか。
➡案内の中に、鑑賞の際の注意点を明記し、協力を仰いでいく。
2. 自由記述の中に、「本の読み聞かせの後に子ども達の感想を求めてはどうか？」という意見があつたが、感想を求めることは、読み聞かせの本来の趣旨に反する恐れがある。
➡本校では、5GOサポートの方に朝の読み聞かせをお願いしており、子ども達には、じっくりとお話に浸ってもらうことを共通理解してきた。感想を含め意見を出すことは、これからの社会情勢を考えると必要な力ではあるが、読み聞かせの時間ではなく、国語等の学習の中で発揮させていく。

また、「自主勉強を宿題に」という要望もあるが、発達障がいのある子には苦痛でしかないことも理解して欲しい。

◆齋藤委員より

1. 評価を見ると全体的に底上げが図られ、水準が高くなってきている。
ただ、アンケートの回答の中で、「全くそう思わない」とマイナス回答している子がいるので、その対応も考えてはどうか。
2. スマホについては、昨年度は「約40%の子が持っていない」としていたのに対し、今年度は約30%と減少し、年々、スマホ保有率高くなってきている。それだけに、正しい使用の仕方を幼少期に徹底していきたいと考える。子ども達は、実際にスマホでどんな使い方をしているのか興味がある。
3. 授業通覧をして、どの学級も子ども達が生き生きとしてとっても明るい印象がある。先生方の教材も工夫され、学習したくなる雰囲気であった。ただ、カーテンを閉めていた学級があつたが、暗く感じた。教室の照度はもっと明るさが必要なのではないか。

◆昌浦委員より

1. 5年生が行っている「山形県学力等調査」の公表は可能か？結果はどうだったのか？以前から本校の学力は高い。学力テストについて、以前のように県や市をリードする学校であってほしい。
➡県でまとめたもの及び個票は該当学年の児童及び保護者に返しているが、学校として独自のものは作成していない。5学年の県学力調査の傾向は、6学年の全国学力状況調査とほぼ同じ。(全国学力状況調査の結果と分析は全保護者と地区に学校だよりやホームページで公表している)
2. 家庭学習が強化されていない中での今回の全国学力状況調査の結果なら、特に問題ない。
3. 金融教育についての提案であるが、教員の負担増にならず、しかもプロが授業するシステムがあるので専門家を呼んで学んではどうか。

4. 校章磨きなど、他校にはない「親父の会」での活動が素晴らしい。「親父の会」に所属する主要なメンバーが4学年の保護者に多いことから、学年間のコミュニケーションがうまく図られていると思われる、他の学年にも波及してほしい。

5. オリンピック・パラリンピックのキャラクター投票について、学校ではどう対応しているのか？

→本校としてもキャラクター投票について応募できるよう申し込みをし、学級ごとに3つのキャラクターから一番人気のあったものを応募していく。(2/22応募済)

◆村山委員より

1. 保護者が更に充実したいこととして、心の教育やいのちの教育を挙げていたが、裏を返せばその分野に不安を持っているということだろうか？

2. アンケートの「失敗を恐れずに挑戦する」の項目がやや低いが、このことを親が望んでいるのかもしれない。家庭において、もっと保護者が後押しをして挑戦させて欲しい。

3. 自由記述に「保護者とのかかわりに温度差がある」という記載が気になった。学校に対して積極的にかかわってくださる方とそうでない方がいるということか。

～今年度の学校経営を振り返って～

学校評価アンケートを通した子ども達の実態や保護者の皆様からのご意見やご要望、そして学校評議員の方々との学校経営懇談会で話題にしたことについて具体的にお知らせしました。

今年度は、「自分」にもっと着目させたいとの思いから16年ぶりに学校目標を改定し、「**自分を発揮できる** 居心地のいい

あたたかい学校」をスローガンに「**自己有用感**」を今年度の柱としてきました。本校の子ども達は家庭環境にも恵まれ、その子なりのよさや力を持っており、昨年度の課題として、自分のよさに気づかないことや自己の成長を自分で認識できないということがありました。そのことから、一人一人のよさや力を発揮させる場の設定や子ども達自身が自分の力を知るための手立てを学級ごとに工夫してきたところです。併せて、自分のよさや力を具体的に発揮している子ども達の姿をエピソードとして全校生に紹介したり、「あなたのよさや力の紹介カード」を校長と子ども達とでやりとりしたりしてきました。学校評価の自己有用感の項目について、下記の昨年度との比較数でわかるように大きく伸びが見られ、これまでの取り組みが徐々に浸透してきていると考えております。



◇設問「**自分の力を発揮でき、みんなにも認められたことがある**」

「全くそう思う」 前年度 26.6% → 54.0%

「概ねそう思う」 前年度 45.6% → 33.1%

前年度 72.2% → 87.1%

■なぜ自己有用感なのか？

自己有用感とは、自分だけのがんばりで達成する自己達成感と大きく異にしています。

周りの人たちに認められることで自分のよさを見つめ直すこと、これが自己有用感です。

子ども達の自己有用感を醸成させるために本校で大事にしてきたことは、周りの子ども達同士のあたたかい関係づくりです。自分の力を発揮しようと思っても、周りの子ども達がそれを受け入れてくれなければ、自己満足と虚しさで終わってしまい、次につながることもなくなります。**周りの子ども達同士で支え合うあたたかい関係があつて、自分を発揮できる**ということなのです。これからも自分のよさや力を発揮できるための環境づくりに努めてまいります。

校長 三森 聡